

NHK邦楽技能者 育成会 同窓会

現代邦楽

響

HIBIKI
2018

演奏会

2018年

3月10日(土)

午後3:30開場/午後4:00開演

日本橋公会堂

〒103-8360 中央区日本橋蛸殻町一丁目31番1号

御挨拶

NHK邦楽技能者育成会 同窓会 理事長 杵屋 静子(5期)

本日はお忙しい中ご来場いただきまして誠にありがとうございます。

NHK邦楽技能者育成会は、平成22年に55期卒業をもって終了いたしました。私どもは、50余年の間に卒業生の為に作曲された曲、同時代に作曲された多くの現代邦楽作品を、ともに次世代に伝えていかねばならぬという思いで活動を続けております。

今回もNHK-FM「邦楽百番」での放送が予定されております。演奏会開催にあたり、NHKはじめご協力いただきました多くの皆様に厚く御礼申し上げます。

ごあいさつ

現代邦楽「響」実行委員会 代表 後藤 すみ子(2期)

殊のほか厳しかった今年の冬でしたが、ようやく水ぬるむ春の訪れとなりました。

本日はご多用の中 NHK邦楽技能者育成会「響」の演奏会にご来聴頂き、誠に有難うございました。早いもので育成会が終了して8年が経ちました。その中でも昨年は講習会を開き、その結果、発表の場として「響」の演奏会を立上げ、開催致しました。皆真剣に取り組み大きな成果を挙げる事が出来ました。本年はもう一步進み、規模を少し広げ、本日の演奏会となりました。皆様方の忌憚のないお言葉を頂き、今後の指針と致したく思っております。

又本日のプログラムの寄稿は、会員の中で世界に向け日本の伝統音楽を広めようと活発な活動をしている方、児童に自国の音楽を再認識させ、教育・成長の糧にしようとして地道な努力をしている方々に執筆をお願い致しました。色々な形で日本伝統音楽を後世に伝え、広めようとしている方々が、私ども会員の中にいることは素晴らしい事で、誇らしい気持ちで一杯です。

今後ともよろしくお願ひ申し上げます

講習会の様子



「春の讃歌」講師：杵屋子邦



「年輪」講師：後藤すみ子



「邦楽器のための Essay」講師：石川憲弘

寄稿

「Inspire」

福田 輝久(18期)

TRT WOLD (Turkish Radio and Television) のスローガンは Where News Inspires Change、1月の半ばより私たちの音楽ドキュメンタリー制作のためトルコメディアクルーが訪れる。世界のアーティストの音楽と日常を追いヨーロッパに紹介し、芸術の風を届ける番組。

私の尺八歴は大学より始まり、育成会で基本音楽知識を、日本音楽集団ではアンサンブルの秩序を学び、30代半ばより個人活動を開始。同時に同年代の作曲家 尾崎敏之、金田潮兒両氏から“一緒にやらないか”と、尺八にかかわる作品創造を3人の作曲家と始め、独奏や洋楽器との小アンサンブルなど新作活動を展開した。前々より新しい尺八表現を渴望する私であったが、年4回開催の時もあり只ひたすら新作展に没頭した。この時代は現代音楽の創造活動も盛んであり、皆刺激しあい燃えていた。若き作曲家らは作品に対する思い入れも強く、かつ創造者としての意識も大変高く切磋琢磨しあった。私の尺八表現もこの頃より変化し、要求される細部の音楽表現、曲の解釈など、作曲家の譲れぬ作品への誇りは私の演奏技術の向上にも大きく関わった。又、音楽についても語り合える仲間でもあり精神的にも満たされていた。尊敬しあえることでの豊穡感は何事にも代えがたい。時は少し戻るが1980年頃にはライオネルハンプトンのサクソ奏者トム・チェイピンより“あなたにはできるから”と循環呼吸奏法を勧められ、出来た時にはうれしく杵屋正邦先生に先ず報告したことを思い出す。これは私にとっては大変価値のある技術…。多くの作曲家とのコラボレーション・新作展活動は国内外でも続き、2002年にはパリ在住の作曲家 丹波明氏と出会い“邦楽聖会”を結成した。氏の日本音楽や音楽芸術に対する見識、態度、又作品は私に決定的に作用し、演奏家として核心を築くことができた。伝統と刷新をテーマに活動するが、新たに創出される作品達は様々な感情を目覚めさせ、沸き立たせ、技術を開拓させ、そして“伝統”を見つめ直させてくれている。

「子供達と共に」

井上 千恵子(15期)

1953年に誕生した「TBS こども音楽コンクール」は今年65回を迎えました。このコンクールは、録音テープによる一次審査の後、地区大会、ブロック大会、全国大会と続き、一年がかりで選考が行われ、小・中6部門ごとに「文部科学大臣賞」が選ばれる、洋楽、邦楽を問わず参加できるコンクールです。

このコンクールに、2005年初参加。当時は楽器も少なく、箏二重奏での参加で全国大会まで行き、「審査委員特別賞」を頂きました。その後17弦が加わり、三重奏を選曲出来るようになり、これまでに文部科学大臣賞を3回頂きました。

洋楽合奏ばかりの中で、邦楽が日本一に選ばれたことは、とても誇りに思っています。

2012年に始まった日本学校合奏コンクールも、楽器や構成など出場制限のないコンクールでしたが、洋楽器ばかりでした。全国大会に出場し、アンサンブル部門にて二年連続で金賞、文部科学大臣賞を頂きました。

この時の子供達が、中学校に行っても箏の合奏がやりたいと、箏曲部を立ち上げ、中学生として「洗足学園ジュニア邦楽コンクール」や「利根英法箏曲コンクール」に参加し、いずれも最優秀賞を頂きました。ただ箏が弾きたいという強い情熱だけで、部室もなく、楽器もなく始まった部活でしたが、目標をもって頑張った努力の結果でした。

若い頃、師匠から音の出し方や音楽に対する考え方を教えて頂いて居りましたので、子供達にも音色の出し方やフレーズの取り方、そして表現方法を伝えて居ります。

子供達の吸収力は凄まじく、技術の進歩は練習量と相まって、目を見張るものがあります。

演奏技術だけに目が行くと、競争心を煽ることになってしまいますので、準備段階や合奏曲を通して、思いやりのある優しい心が育って欲しいとの願いを込めて指導しております。

これからも、次代を担う子供達に、礼に始まって礼に終わる美しい日本文化と共に、日本の伝統音楽の素晴らしさを伝えて行きたいと思っています。

「現代邦楽について」

松本 宏平(53期)

なぜ現代邦楽なのか。邦楽には先人達が不断的な努力で洗練させてきた唯一無二の価値を持つ古典作品があるにも関わらず。これは今を生きる邦楽家の命題であると思う。

現代邦楽の名作に触れる度に、「今」の感性で捉え直された鮮烈で清新な魅力に「今」を生きている私は共感ともいべき感動を覚え、また逆に、現代邦楽作品に触れば触れるほど、古典の中に丹念に込められた音色の選択、指法の鮮やかさ、我々の根底に通じる精神性の具現といった先人達の叡智と知恵、工夫の結晶に打ちのめされてしまうのである。常に新しい感性を求め、新しい感性で創造し、その成果を古典へ還元し、古典をアップデートする。こういった試行錯誤の積み重ねが、その時代それぞれの邦楽を作り、それがまた古典となってきたのだろう。

私がまだ育成会に通う前、現代邦楽のビビッドな表現に感動し一体どんな人が演奏しているのだろうかかと経歴をみると、そこには必ずといっていいほど「育成会卒」の文字があった。育成会は現代邦楽の歩みと共にあった。55期をもってその幕を下ろした育成会だが、まだその役割終えたとは思えない。戦後非常なエネルギーをもって膨大なアーカイブを残してきた現代邦楽を今再び掘り起こし、未来に伝えるべき現代の遺産として活性化させてゆく、その中でまた育成会が存在感を示すことができるようにありたいと強く思う。

プログラム

「風と光と空と」 佐藤 敏直 作曲

指揮	板倉康明[50～55期講師]			
箏Ⅰ	五味静子(7期)	大泉一美(34期)	五本木茂美(39期)	岡戸朋子(55期)
箏Ⅱ	梅田佳予子(33期)	五月女雅(35期)	中川裕美(37期)	中畝詩歩(48期)
箏Ⅲ	竹澤かほる(27期)	一色美枝(34期)	飯田智奈美(54期)	
箏Ⅳ	柳場比都美(23期)	菊池美恵子(27期)	渡邊勝代(44期)	
箏Ⅴ	麗明智翔(48期)	佐藤千佳子(52期)	阿佐美穂芽(55期)	
十七絃Ⅰ	花形朋枝(37期)	清野さおり(40期)		
十七絃Ⅱ	古瀬麻美子(17期)	斎藤純子(48期)		

三絃合奏曲 「春の讃歌」 杵屋 正邦 作曲

高音三味線	今藤政音(39期)			
中音三味線Ⅰ	富成清女(15期)	杵屋子邦(18期)	杵屋七可佐(25期)	富緒清律(33期)
中音三味線Ⅱ	小林富美代(8期)	高田史子(17期)	嶺岸宏枝(20期)	吉岡五月(55期)
低音三味線	谷藤あき子(17期)			

「邦楽器のためのEssay」 牧野 由多可 作曲

指揮	石川憲弘(26期)[32～39期講師]			
尺八Ⅰ	古屋輝夫(16期)	山口連山(32期)		
尺八Ⅱ	原郷界山(44期)	岩本みち子(51期)		
三絃	杵屋静子(5期)	富成清女(15期)	富緒清律(33期)	成瀬朋子(48期)
箏A	五味静子(7期)	大泉一美(34期)	大町あかね(37期)	
箏B	篠原千穂(34期)	渡邊勝代(44期)	飯田智奈美(54期)	
十七絃	合田真貴子(34期)	小畦香子(48期)		

<休憩>

曲目解説

「風と光と空と」 佐藤 敏直 作曲 (1986年)

伝統的なお箏の調絃が今日のようなものになっているのは、当然のことながら伝統的な音楽を奏するのに最も相応しいという理由になろう。胴の形などもそれらの響きを豊かにするために試行錯誤を経て定着した筈である。

けれども私は、そのお箏の音色からしばしば、いわゆる教会旋法への想像をかきたてられる。ハープに近いものを潜在的に感じているのかもしれない。

この作品は3つの楽章から成っており、そのほとんどが教会旋法的であるから、従って調絃もすべてのお箏が、音域上の差はあっても、同じになっている。もっともこんなことは合奏だからこそ出来ることで、独奏だったら音域が狭くなって不自由になるに違いない。

ところで、風も、光も、空も、それ自体では形もなく意味も不明確であるから、仮に1枚の木の葉すらも泳がせることがなければ、これを単にⅠ、Ⅱ、Ⅲとしてもいいぐらいのものである。

<作曲家>

三絃合奏曲「春の讃歌」 杵屋 正邦 作曲 (1963年)

凍てついた大地をつらぬいて春の訪れを天空に叫ぶ萌芽のエネルギー。うららかな陽光に挙措おのずから定まる和敬の境地。宇宙の大いなる循環、春・夏・秋・冬の春に心を求めた三絃合奏曲です。

<作曲家>

「邦楽器のためのEssay」 牧野 由多可 作曲 (1967年)

1967年、当時盛んに活動をして居た「民族音楽の会」の為に作曲するようNHKから求められ、そのグループの編成に従って作曲をした。

初演は同年 NHK-FM放送により前記のグループによって行われた。

三楽章から成り立つ曲で最初に十七弦によって示される Cis Fis H Eis という動きによる音型から成り立つ。

特長としては多調の手法によって作曲されて居り、三つ以上の調性が同時に進行することが多くこの曲に一つの個性を与えている。

第1楽章 モデラート 第2楽章 レント 第3楽章 アレグロアッサイ、2楽章と3楽章は続けて演奏され(アタッカ)第3楽章のみが、安定した調性を感じさせるがそれでも随時、多調の個性をのぞかせている。

各楽章とも比較的短く、又音楽としても圧縮された感じを持つ。私の作品中では特異な作品と云えようが私には今もって愛着のある作品なのである。

<作曲家>

私はこの曲を、正式な育成会の講師になって翌年の第35期卒業演奏会で卒業生OBの演奏曲として演奏した。牧野先生には、文化庁芸術家国内研修生として作曲の教授をしていただいていたご縁で、指導をお願いしたところ、それほど演奏される機会の少ない曲であった為かとても喜ばれて、非常に丁寧に、時に棒を振って指揮をされたりしながらご指導を受けた。

曲の内容に関しては、牧野先生の解説にある通り、各楽章ごとのモチーフだけでも立派に一つの作品になるような、密度が非常に濃い、凝縮された音楽である。

今回は幅広い年代の卒業生の皆さんと、一緒に牧野先生の作品を作り上げることが出来てとてもうれしく思う。

観客の皆様にも、現代邦楽が一番活動的(それには毎週新作を放送していたNHKの功績は非常に大きいと思われる)であった時期の音楽を楽しんでいただけたらありがたい。

(石川憲弘)

尺八、二面の箏、三絃による「密度」 一柳 慧 作曲

指揮	板倉康明 [50～55期講師]		
尺八	岩本みち子(51期)	松本宏平(53期)	
三絃	杵屋子邦(18期)	成瀬朋子(48期)	
箏Ⅰ	高須真穂(32期)	斎藤純子(48期)	寺井結子(55期)
箏Ⅱ	麗明智翔(48期)	馬場千年(54期)	福本礼美(54期)

「年輪」 松本 雅夫 作曲

尺八	福田輝久(18期)	山本貴之(55期)		
三絃	横山まり子(16期)	稀音家陽之(19期)	竹澤かほる(27期)	井上美和(55期)
箏Ⅰ	後藤すみ子(2期)	高須真穂(32期)	大町あかね(37期)	
箏Ⅱ	大澤善子(18期)	馬場千年(54期)	福本礼美(54期)	
箏Ⅲ	栫場比都美(23期)	菊池美恵子(27期)	一色美枝(34期)	
十七絃	井上千恵子(15期)	古瀬麻美子(17期)	小畔香子(48期)	

邦楽界の最新動向がひと目でわかる情報誌

毎月1日発行・A4判・650円

(同内容同価格のデジタル版もあり)

お得な定期購読がオススメ(送料弊社負担)

邦楽ジャーナル

(有)邦楽ジャーナルは
【出版・通販・イベント】
3つの柱で運営します。

◆月刊情報誌「邦楽ジャーナル」の発行

◆1900アイテム余の邦楽CD・書籍等の
通信販売「HOW」の運営
<http://hj-how.com>

◆コンサートやワークショップの制作

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-38-10 代表・田中隆文
TEL03-3360-1329 FAX03-5389-7690 info@hogaku.com



尺八、二面の箏、三絃による「密度」 一柳 慧 作曲 (1984年)

「密度」は、尺八、二面の箏、三絃による四重奏曲である。同じモチーフを、それぞれの楽器が、その楽器の特性にもとずいて、少しずつ変形したかたちで演奏する。尺八は持続音と鋭い装飾音などを中心に、箏は旋律と噪音の両面から、そして三絃はリズムのヴァリエーションを主体にモチーフとかかわりあう。

それらの要素が、さまざまに異なった時間の密度を育みながら、同時に空間的に幾重もの層をかたちづくっていく。曲は、点描的な旋律と、激しい噪音の要素が、持続的状态を経て、次第にリズム主体の動きへと変化し、再び持続的状态を介して旋律の要素が再現されて終わりを迎える。

長い年月の修練と、豊富な経験を有する、邦楽4人の会の皆さんが演奏して下さるのを嬉しく思うと共に、謹んでこの曲を献呈する。

(1984年2月 一柳 慧)

<第53回 邦楽4人の会的演奏会プログラムより転載>

「年輪」 松本 雅夫 作曲 (1963年)

樹木は、日本のような温帯では、春から夏にかけては成長が早く、秋から冬にかけては遅いため、一年周期で幹に輪状の線をえがきながら大きくなってゆく。作曲者は、具体的には、この木の年輪をイメージしながら、それぞれの人に刻みこまれている年輪に、想いをはせてゆく。

この曲の全体の構成も、比較的短い部分が次つぎに年輪のように連なっていく形をとっている。それは、絵巻物のように、少しずつ関連をもった各部分が、また少しずつ変化しながら、そして多少エピソード風のものを含みながら、次つぎに現れるといってもよいかも知れない。その意味では、伝統的な楽曲構成法に通じる面もあるが、この作曲者の場合、ただ思いつくままに並べたわけではなく、洋楽のような計算された構築性があることに、注意を払う必要がある。各部分は、大体において序破急のように、ソロまたは少数の楽器で比較的ゆっくり始まり、楽器の数を増しながら、あるいは他の楽器に主要なモチーフを次つぎに渡しながらか、音の刻みがこまかくなってゆく、という形をとっている。そして全体としても大体序破急的に盛り上がってゆく。年輪のイメージを、全体の楽曲構成からも暗示しているのではないだろうか。

音は美しく流れながら現代性を失わず、ゆたかな調和の世界をつくり出している。松本雅夫の傑作の一つというべきだろう。

<小島美子：松本雅夫作品集 レコード解説より抜粋>



あなたの楽器は私達がささえます！

全国邦楽器商工業組合連合会

全国邦楽器商工業組合連合会とは

(全邦連)

1956年に設立した全国の邦楽器メーカー・職人・卸売・小売・楽譜出版社等の会員からなる組織で、以下の各地組合で構成しています。

東京和楽器製造卸組合 東京和楽器商組合 北海道邦楽器商組合 仙台北邦楽器商組合
福島県邦楽器商組合 神奈川県邦楽器商組合 静岡県和楽器商組合 新潟県邦楽器商組合
北陸邦楽器商工業組合 長野県邦楽器商組合 中部和楽器商組合 京都邦楽器商工業組合
全国邦楽器系組合 大阪邦楽器商組合 関西地区卸商組合 関西三絃製造組合
全国邦楽器妙音会 兵庫県邦楽器商組合 中国邦楽器商工業組合 四国邦楽器商組合
九州邦楽器商組合 [本部] 光安慶太理事長方＝三郷市鷹野 3-278-1 ☎048-955-4948

◆放送予定◆

「邦楽百番」NHK-FM

NHK邦楽技能者育成会同窓会演奏会

平成30年3月31日(土) 午前11:00~11:50

※再放送 4月8日(日) 午前5:00~5:50

NHK邦楽技能者育成会では随時入会の募集をしております。演奏会をはじめ様々な形での活動を予定しております。未入会の卒業生のご入会をお待ちしております。

■NHK邦楽技能者育成会同窓会事務局
TEL 080-9708-1055 FAX 03-6800-2012
E-mail:n.ikuseikai.dousoukai@gmail.com

現代邦楽「響」実行委員会

後藤すみ子 (2期)※代表

横山裕子 (29期)

山口連山 (32期)

高須真穂 (32期)

富緒清律 (33期)

合田真貴子 (34期)

設楽瞬山 (38期)

原郷界山 (44期)

松本宏平 (53期)

福本礼美 (54期)※実行委員長

井上美和 (55期)

音楽監督

板倉 康明

出演 石川 憲弘 [指揮]
板倉 康明 [指揮]
NHK 邦楽技能者育成会同窓会会員 [演奏]

助成 アーツカウンシル東京
(公益財団法人 東京都歴史文化財団) 

後援 全国邦楽器商工業組合連合会
東京都邦楽器商工業協同組合
◎公益財団法人日本伝統文化振興財団
邦楽ジャーナル (五十音順)

協力 舞台スタッフ (株)琴光堂
楽譜協力 邦楽4人の会